

令和7年度 全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」
(オリエンテーション合宿 in 曽爾青少年自然の家 ～曽爾探究プロジェクト～)

- [主 催] 国立曽爾青少年自然の家
 [期 日] 令和7年8月25日(月)・26日(火)
 [目 的] オリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的な態度、課題に向き合う力を身につけるとともに、郷土や自然に愛着を持ち自ら行動する高校生を育成する



- [対象/参加] 奈良県立添上高等学校人文探究コース1年生36名・2年生34名
 [担 当] 森岡亮平・増田学(企画指導専門職)、大向満(主幹兼事業推進係長)
 菱川裕輝(企画指導専門職付主任)、畠山朝浩(事業係員)

1 プログラム展開

①5月28日 (水)	13:30-15:00 事前ガイダンス、講話「地域づくりの理解と課題設定の基礎」				②6月25日(水)	13:30-15:00 講義・質疑「地域づくりと探究」			
③8月25日 (月)	11:00 入所、 オリエンテーション	12:00 昼食	13:00 フィールドワーク① (曽爾村内)	17:30 夕食・ 入浴	19:00 講義・演習① 「地域づくりと探究」	19:20 発表準備 「地域課題の探究」	20:00 発表①	21:00 HR	22:00 就寝
④8月26日 (火)	7:30 朝食	8:45 フィールドワーク② (曽爾村内)	12:20 昼食	13:30 講義・演習② 「地域課題の探究」	13:40 発表準備 「地域課題の探究」	14:30 発表② 実践活動のためのガイダンス	16:00 退所式	16:20 自然の家発	

2 活動の様子

5, 6月にガイダンス及び曽爾村農林業公社高松氏、一般社団法人そこのわグローバル中野氏による講話を行った。合宿では、観光・ほうれんそう・伝統・菌ちゃん農法・行政・福祉・森林・環境の計8班がフィールドワーク、探究アワード班は自然の家で発表準備を行った。フィールドワークでは、講師から曽爾村の現状や課題についてお話を伺ったり、生徒と一緒に様々な体験をしたりした。その中で感じた課題について、講師の方にどのような提案ができるか考えた。曽爾村魅力アップのアイデアを考える中で、より具体的なアイデアに近づくことができた。2日目の発表では、講師の方に探究したことをプレゼンした。発表には、講師の方からそれぞれの班にフィードバックしていただいた。生徒の皆さんにとって、探究のプロセスに触れる学びのある2日間となった。



3 まとめ(生徒及び教員の感想)

- ・スプーンの手持ちの部分を作るときに、木の枝から作って愛着が湧きました。
- ・班のみんなで課題を見つけ、話し合い、発表したのが心に残った。また次の課題を見つけることもできた。
- ・交流人口を多くしたいという思いと、それによって起こる渋滞やトラブルで住民は良く思わないという矛盾が起こって難しいと思いました。

4 振り返り(成果と課題)

- ・フィールドワーク先では、実際に講師の方からお話を伺ったり、体験したりするなど、実際にやることで得られる学びがあった。
- ・発表については、事前学習よりも現地で感じて知った内容にもっとフォーカスする必要があると感じた。